



松溪中図書館だより

2023年2月
杉並区立松溪中学校
学校司書 新木

特集！戦争について考えよう！ & 新着図書紹介(読書郵便より)

今週、1・2年生は朝読書の返却強化期間です。3学期に配布された本を一度も交換していない人は、返却して新しい本を借りて読みましょう。引き続き同じ本を読む人は、延長手続きに来るか、図書委員に伝えましょう。



図書委員おススメ本展示中！



猫にまつわる本も多数集めました！



枕は赤青2色各5種類の猫

2月22日は猫の日。

- *「少年写真新聞社」のHPからダウンロードした猫のお布団ブックカバーに猫のしおりをはさんで展示しました。(しおりは借りた人へのプレゼント)
- *本を2冊借りた人にも猫のしおり又はブックカバーをプレゼント(ただし、延滞本がないこと)



読書郵便より (図書館内にも展示中！)

夏休みの宿題、読書郵便。西田小・桃井第二小に作品交流で送ったものを掲示しました。また、図書館内の展示や、日めくりにもしましたので、紹介文を読んで、興味を持った本を借りてください。

戦場に焦点を合わせるのではなく、普通に生活をしてきた人たちが戦争に巻き込まれていく物語や、戦争そのものについて考える本なども集めました。

「戦争について考えよう」
～読むことは、考えること！～

『13枚のピンボケ写真』

キアラ・カルミネーティ/著

オーストリアで暮らしていた13歳のイオレの家族は第一次世界大戦勃発とともにイタリア帰国を余儀なくされ、父と兄は戦地へ。その上スパイ容疑で母が拘留され、妹と2人きりに。そんな日々の中でも、笑い、恋をし、家族のもつれた糸をほぐそうとする少女の視点で描かれています。戦争の残忍性を「野獣」と表現!!

『プーさんの戦争』

ある獣医師と出会いカナダ軍のマスコットになって大西洋をわたった熊の実話

『せかいいちうつくしいぼくのむら』

*戦争のなかでも明るく力強く生きるアラゴスタンの村人を描いた絵本

『きみと考える戦争のない未来』

池上彰/著
人間が起こし体験した様々な戦争を取り上げ解説。更に戦争を取り巻く世界状況や戦争をなくす取組も紹介し、ともに考えようと語りかける本。

『それでも日本人は戦争を選んだ』

加藤陽子/著
とある中高一貫校に対して行った、日清戦争から太平洋戦争までの5日間の特別講義を元に解説。例えばイギリスのマゼソン商会の社員だったら何を基準に考えるかなど、暗記でない歴史を実感することができる本。

『海の島ーステフィとネッリの物語』

ユダヤ人弾圧を逃れオーストリアからスウェーデンにある島に疎開した二人の姉妹の物語。

小梅けいこ著
コミック版もありません

『戦争は女の顔をしていない』

スガエトラナ・アルクエーグイッチ/著

第二次大戦に従軍した旧ソ連の女性約500人から聞き取りをし、ひた隠してきた体験の記録。狙撃手、「見知らぬ女子」に代わり手紙を書いて渡した郵便局員、笑顔でいる場面をカメラに収めていた書記などの証言から、戦争の実相が伝わります。

『ひとはなぜ戦争をするのか』

A・アインシュタイン S・フロイト/著

国際連盟の依頼で2人が交わした書簡。「戦争がなくなるのは、そもそも人間は破壊的な欲求をもっているから。では、その欲求自体をコントロールすることはできるのか？」というアインシュタインからの質問に、フロイトは何と返信したのでしょうか？養老孟司氏他の解説も。

『パンに書かれた言葉』

朽木祥/著

イタリア人の母と日本人の父をもつエリーは鎌倉に暮らす中学生。東日本大震災で心が疲労した彼女は、両親に勧められイタリアの祖母のもとに滞在することに。祖母から初めて聞かされた戦争体験や大好きだった兄の話に、自分の事のように胸を痛めます。そして日本に帰国した彼女は、夏休みにひとりでの父の実家へ行き、祖父から「語りたがらなかった」被爆体験を聞きます。祖母の兄がパンに遺した言葉は？



007	図解でわかる 14歳から知っておきたいAI	イノベティアル研究所	太田出版	AIの誕生から未来まで順を追って、ロボット、思想、技術、人間社会との関わりなど様々な面からわかりやすく解説	
291	新・日本のすがた 全巻	帝国書院編集部	帝国書院		
311	図解でわかる 14歳から考える民主主義	イノベティアル研究所	太田出版	民主主義を手に入れるまで、民主主義の骨格、検証・世界第17位の日本の民主主義、揺らぐ民主主義の未来の4パートで解説。	
B319	ひとはなぜ戦争をするのか	A/アインシュタイン他	講談社		
368	シリーズ 貧困をを考える	1.世界の貧困・日本の貧困	池上彰/監修 稲葉 茂勝/著	ミネルヴァ書房	世界と日本の貧困問題について、善ごとと、国際比較・歴史の変化・貧困の悪循環という異なる視点で考えるシリーズ。地図やグラフ、用語解説など資料も充実。
368		2.昔の貧困・今の貧困			
368		3.子どもの貧困・大人の貧困			
369	図解でわかる 14歳からの自然災害と防災	諏訪 清二/監修	太田出版	雲のしくみから空の読み方、災害をもたらず雲や、危険を知るための情報などについて知識を得て、災害に備えるために!	
451	天気を知って備える 防災雲図鑑	荒木健太郎他	文溪堂		
454	のぞく図鑑 穴	宮田 珠己	小学館	穴があればのぞきたくなる! 超ド級の洞窟・燃える穴・陥没穴・動物たちの巣穴・ブラックホール 身近な穴... 穴になる穴のコレクション。穴は新しい世界の入口!	
491	睡眠の大研究	櫻井 武	PHP研究所		
498	図解でわかる 14歳からのストレスと心のケア	富永 良喜/監修	太田出版		
527	住まい方を考える本	妹尾 理子/監修	あかね書房	見ているだけで夢が膨らむ間取り。近年人気の間取りや暮らしに役立つ13種の動線、タテにもつながる間取りのルール、収納の作りの工夫などを詳しく紹介。	
527	間取りの解剖図鑑	本間 至	エクスナレッジ		
527	間取りのすごい新常識	————	エクスナレッジ		
611	地図でスッと頭に入る世界の三大穀物	宮路 秀作/監修	昭文堂	小麦・トウモロコシ・大豆。輸入に頼っている、世界三大穀物を地図で解説。穀物の産地と流通経路が面白いほど理解できる本。	
613	土の大研究	藤井 一至	PHP研究所		
778	ジブリの立体建造物展	スタジオジブリ/編	トゥーヴァージンズ	現実的であり、空想的な建物の一部始終!	
910	作家たちの17歳	千葉 俊二	岩波書店	作家たちがした17歳の選択とその後の人生	
913	横浜駅SF	*リ 柞刈 湯葉	KADOKAWA	日本は自己増殖する「横浜駅」に支配されます。脳に埋め込んだSuikaで管理されるエキナカ社会を描いたSF小説。	
913	変な絵	雨穴	双葉社		
913	パンに書かれた言葉	朽木 祥	小学館	アメリカのシカゴ美術館には、12分の1の大きさに作られた、本物そっくりのミニチュアルームがあります。魔法の鍵を手に入れたルーシーとジャックは、その鍵を盗まれてしまいます。	
913	恋とシェイクとバレンタイン	神戸 遙真	講談社		
913	恋とシェイクと春休み				
933	12分の1の冒険シリーズ 2~4巻	*リ マリアン・マローン	ほるぷ出版		
B913	人生は並盛で	*リ 小野寺 史宜	小野寺 史宜	一見青春を楽しんでいるように見える女子高生たちに潜むコンプレックスや違和感などがテーマ。繊細な心理を巧みに描きだした5つの連作短編集です。	
B913	青い春を数えて	武田 綾乃	講談社		
B913	総理の夫	*リ 原田マハ	実業之日本社		
B913	ラーゲリより愛を込めて	辺見 じゅん	文藝春秋	記念館でアルバイトとして働く百花。2巻では友人と名古屋の紙こものイベントに参加。美濃の紙漉きも体験体験します!	
B913	紙屋ふじさき記念館 2・3巻	*リ ほしお さなえ	KADOKAWA		

『奈落の底から見上げた明日』

照ノ富士春雄/著 日本写真企画

これは、第73代横綱照ノ富士のモンゴル時代から横綱になるまでを綴った本です。2015年に大関に昇進するも大けがや内蔵疾患により序二段まで7段の降格。引退を覚悟しながらも決心し上を目指して8段昇格を果たし横綱になる。私はこの本を読んで覚悟や努力の大切さ、責任感について学び考えました。... (略) 心を励まし、希望や元気を与えてくれる本、ぜひ読んでみてください。(2D 森さん)



読書郵便で紹介された本を購入しました

『主君』 高殿 円/著 文藝春秋

この本では木保守から見た、同僚であり、ある意味主君でもある井伊直政の生き方や2人が生きた激動の時代を描いています。家を捨てた木保守勝と家が滅びた井伊直政。似た者同士でありながら性格や考え方は真反対、反発しながらも支え合い続けた2人の物語です。また、戦国時代の合戦についても詳しく知ることができます。(中略) 直政と守勝の2人と家康や家臣たちとの話しているシーンも笑えてとても面白いです。(2A 宇都宮さん)

『落花流水』 鈴木 りか/著 小学館

憧れの近所のおにいちゃんが下着泥棒で捕まった! 絶対にこれは夢、何かの間違い...! 受験生の私はそれでも日々、前に進まなくてはならない。様々な葛藤を抱えながら...。主人公の美味を支える仲間との会話リアルで素敵です。現役の高校3年生が描いた青春と友情の物語です。私も学校生活を送る上で、仲間と交わす言葉に力をもらって日々、前へ進んでいる気がします。この本を読むことで、改めて「仲間っていいなあ」と思っています。(2B 篠澤さん)

『宙ごはん』 町田 そのこ/著 小学館

(あらすじ) 主人公の宙には2人の「お母さん」がいる。小学校に入学するまで育ててくれた風海と、小学校に入学してから育ててくれた産みの親、花野。しかし花野は理想の母親からほど遠く、授業参観に来ないのにどこかへ出かけたりなど、ひどい生活であった。そこに佐伯がやってくる。毎日朝食を用意して... (中略) 読んだあとに感動が待っています。〈感想〉いつの間にかたくさんの人に助けられているのだとこの本で実感した。また、人は「ごはん」によって助けられていると思った。(2A 杉原さん)

『手紙』 東野圭吾/著 文藝春秋

(内容) この本は、兄(武島剛志)が弟(武島直貴)の大学進学のため空き巣に入って、思いがけずに強盗殺人を犯して捕まり、弟は「強盗殺人の弟」というレッテルに苦しみ... (中略) 社会からの差別に苦しむ人ほどのように現実と向き合っていくのか、気になる人はぜひ読んでみてください! 〈感想〉加害者の家族目線で語られているこの物語は、とてもおもしろく、深く心に刺さった。(2C 栗原さん)